

平成 24 年度に実施した選択的評価事項に係る
評価に関する検証結果報告書（高等専門学校）

平成 26 年 2 月

独立行政法人 大学評価・学位授与機構

はじめに

大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）では、選択的評価事項に係る評価を開放的で進化する評価とするために、評価の経験や評価を受けた機関等の意見を踏まえつつ、常に評価システムの改善を図ることとしている。

このため、選択的評価事項に係る評価において、毎年度、評価の終了後、評価対象校及び評価担当者へのアンケート調査を実施し、その結果等をもとに評価の有効性、適切性について検証を行うことにより、評価内容・方法等の改善・充実すべき点を把握し、次年度以降に実施する選択的評価事項に係る評価に反映させている。

平成 24 年度実施の選択的評価事項に係る評価においても、引き続きアンケート調査を実施して検証を行うこととし、より透明性の高い評価とするため、新たに平成 24 年度実施の選択的評価事項に係る評価（12 高等専門学校）に関する調査及び検証結果を取りまとめることとした。

目 次

はじめに

I	機構が実施した選択的評価事項に係る評価の概要	1
II	平成 24 年度実施の選択的評価事項に係る評価に関する検証	
1.	検証の実施方法	5
2.	項目別の検証	
(1)	選択的評価事項に係る評価を受けた理由	6
(2)	選択的評価事項及び観点について	7
(3)	自己評価書について	9
(4)	書面調査・訪問調査について	10
(5)	評価結果（評価報告書）について	12
(6)	評価についての全般的な意見・感想について	13
3.	総括	14

参考資料

- 1 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果
（選択式回答）【対象校】
- 2 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果
（選択式回答）【評価担当者】
- 3 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果
（自由記述）【対象校】
- 4 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果
（自由記述）【評価担当者】
- 5 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【対象校】
（高等専門学校用）
- 6 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】
（高等専門学校用）

I 機構が実施した選択的評価事項に係る評価の概要

平成 24 年度に実施した選択的評価事項に係る評価の検証をまとめるに当たって、まず機構が実施した高等専門学校を選択的評価事項に係る評価の概要について触れておく。

機構の実施する認証評価は、高等専門学校の正規課程における教育活動を中心として高等専門学校の教育研究活動等の総合的な状況进行评估するものであるが、高等専門学校にとって研究活動は、教育活動とともに主要な活動の一つであり、さらに高等専門学校は、社会の一員として、地域社会、産業界と連携・交流を図るなど、教育、研究の両面にわたって知的資産を社会に還元することが求められており、実際にそのような活動が広く行われている。

機構は、高等専門学校評価基準とは異なる側面から高等専門学校の活動を評価するために、「研究活動の状況」（選択的評価事項 A）と「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」（選択的評価事項 B）の二つの選択的評価事項を設定し、高等専門学校の希望に基づいて、これらの事項に関わる活動等について評価を行っている。

選択的評価事項は、平成 17 年度に選択的評価基準として「研究活動の状況」及び「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の評価を開始した。なお、平成 18 年度実施分より選択的評価基準から選択的評価事項へ名称を改めている。

平成 24 年度実施の選択的評価事項に係る評価は、二つの評価を開始してから 8 年目の実施に当たる。なお、平成 23 年度から、機構が実施する評価の第 2 サイクル期間に移行した。

1. 目的

選択的評価事項に係る評価は、各高等専門学校の個性の伸長に資するよう、以下のことを目的として行った。

- (1) 評価結果を各高等専門学校にフィードバックすることにより、各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てること。
- (2) 高等専門学校の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

2. 実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立高等専門学校の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる高等専門学校機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象高等専門学校の状況に応じた評価部会を編成し、評価を実施した。

評価部会には、各高等専門学校の教育分野やその状況が多様であること等を勘案し、

対象高等専門学校の学科等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。

3. 方法・プロセス

方法及びプロセスの概要は、下記のとおりである。

(1) 高等専門学校における自己評価

各高等専門学校は、『自己評価実施要項』に従って、自己評価を実施し、自己評価書を作成した。

(2) 機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

① 書面調査は、『評価実施手引書』に基づき、対象高等専門学校から提出された自己評価書（高等専門学校の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて、対象高等専門学校の状況を調査・分析した。

② 訪問調査は、『訪問調査実施要項』に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。

③ 選択的評価事項ごとに、自己評価の状況を踏まえ、その評価事項に関わる各高等専門学校が有する目的の達成状況等について評価を実施した。

なお、選択的評価事項は、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点が設定されている。目的の達成状況等については、その個々の内容ごとに行うのではなく、基本的な観点の分析状況を総合した上で、選択的評価事項ごとに行った。

④ 選択的評価事項ごとに、取組が優れていると判断される場合や、改善の必要が認められる場合等には、その旨の指摘も行った。

⑤ 評価結果については、「目的の達成状況が非常に優れている」、「目的の達成状況が良好である」、「目的の達成状況がおおむね良好である」、「目的の達成状況が不十分である」の4段階で記述し、公表した。

4. スケジュール

(1) 平成23年6月に、国・公・私立高等専門学校の関係者に対し、評価の仕組み、方法等について説明会を実施するとともに、当該高等専門学校の自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載等について研修会を実施した。

(2) 平成23年9月から10月にかけて申請を受け付け、最終的に以下の12高等専門学

校の評価を実施することとなった。

○ 国立高等専門学校（12高等専門学校）

釧路工業高等専門学校（A・B）、一関工業高等専門学校（A・B）、
茨城工業高等専門学校（A・B）、福井工業高等専門学校（A・B）、
長野工業高等専門学校（A・B）、鈴鹿工業高等専門学校（A・B）、
和歌山工業高等専門学校（A・B）、徳山工業高等専門学校（A・B）、
高知工業高等専門学校（A・B）、有明工業高等専門学校（A・B）、
都城工業高等専門学校（A・B）、鹿児島工業高等専門学校（A・B）

(3) 平成24年6月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施した。

(4) 平成24年6月末に、対象高等専門学校から自己評価書の提出を受けた。

(5) 対象高等専門学校からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは、次のとおりであった。

24年7月	書面調査の実施
8月	評価部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定）
10～11月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象高等専門学校の状況を調査）
12月	評価部会の開催（評価結果（原案）の作成）

(6) これらの調査結果を踏まえ、平成25年1月に評価委員会で評価結果（案）を決定した。

(7) 評価結果（案）に対する意見の申立ての機会を設け、平成25年3月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定した。

5. 評価結果

平成24年度に選択的評価事項に係る評価を実施した高等専門学校の評価結果は、次のとおりとなった。

- 選択的評価事項A
 - ・目的の達成状況が非常に優れている：2 高等専門学校
 - ・目的の達成状況が良好である：10 高等専門学校
- 選択的評価事項B
 - ・目的の達成状況が非常に優れている：8 高等専門学校
 - ・目的の達成状況が良好である：4 高等専門学校

機構はこの評価結果を平成 25 年 3 月 27 日付で、各対象機関及び設置者へ通知するとともに、機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告した。

※ 選択的評価事項は機構ウェブサイトを参照のこと。

http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/kousen/index.html

Ⅱ 平成 24 年度実施の選択的評価事項に係る評価に関する検証

1. 検証の実施方法

(1) アンケート調査の実施

平成 24 年度実施の選択的評価事項に係る評価の対象高等専門学校（以下「対象校」という。）及び評価担当者に対し、記名選択式回答（5 段階・2 段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

(2) アンケート調査結果等の検証

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査内容から、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。その上で、評価実施過程において機構が把握した問題点等も踏まえ、評価の有効性、適切性を検証した。

分析項目は以下のとおりである。

- (1) 選択的評価事項に係る評価を受けた理由について
- (2) 選択的評価事項及び観点について
- (3) 自己評価書について
- (4) 書面調査・訪問調査について
- (5) 評価結果（評価報告書）について
- (6) 評価についての全般的な意見・感想について

※アンケート調査に係る補足事項

1. アンケート用紙配付日程

	平成 24 年度
対象校	平成 25 年 3 月 27 日
評価担当者	平成 24 年 12 月 25 日

2. 平成 23 年度アンケートの回収状況

	回答数	回収率
対象校	12 校中 12 校	100%
評価担当者	16 名中 14 名	88%

2. 項目別の検証

(1) 選択的評価事項に係る評価を受けた理由について

今回、選択的評価事項に係る評価を受けた理由として、対象校から、主に次のような回答があった。

現状の把握や特色のアピールのためという回答が寄せられているほか、「教育とともに研究・社会貢献を責務とする高等専門学校において、選択的評価を受けることは必須であると考えため」のように、選択的評価事項の内容の重要性を評価を受けた理由として挙げる高等専門学校も見られた。

(2) 選択的評価事項及び観点について

機構が選択的評価事項を設けたことは適切であったか、また、選択的評価事項のテーマ、評価方法、基本的な観点の構成や内容が適切であったかどうかについて検証を行った。

① 評価の目的等との関係について

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、「認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった」(機関③、評②[※]) か質問したところ、対象校では、肯定的な回答が 92% (「強くそう思う」75%、「そう思う」17%)、「どちらとも言えない」が 8%、評価担当者では、肯定的な回答が 72% (「強くそう思う」36%、「そう思う」36%)、「どちらとも言えない」が 29%であった。

また、「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった」(機関④、評③) かの質問については、対象校では、選択的評価事項A「研究活動の状況」(以降、「評価事項A」)について、肯定的な回答が 92% (「強くそう思う」67%、「そう思う」25%)、「どちらとも言えない」が 8%、選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」(以降、「評価事項B」)について、肯定的な回答が 92% (「強くそう思う」67%、「そう思う」25%)、「どちらとも言えない」が 8%であった。一方、評価担当者では、評価事項Aについて、肯定的な回答が 72% (「強くそう思う」36%、「そう思う」36%)、「どちらとも言えない」が 29%、評価事項Bについて、肯定的な回答が 65% (「強くそう思う」36%、「そう思う」29%)、「どちらとも言えない」が 36%であった。

次に、「選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった」(機関⑤、評④) かの質問については、対象校では、評価事項Aについて、肯定的な回答が 92% (「強くそう思う」42%、「そう思う」50%)、「どちらとも言えない」が 8%、評価事項Bについて、肯定的な回答が 92% (「強くそう思う」50%、「そう思う」42%)、「どちらとも言えない」が 8%であった。評価担当者では、評価事項Aについて、肯定的な回答が 64% (「強くそう思う」7%、「そう思う」57%)、「どちらとも言えない」が 36%、評価事項Bについて、肯定的な回答が 64% (「強くそう思う」7%、「そう思う」57%)、「どちらとも言えない」が 36%であった。

[※]「機関〇」…参考資料「選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【対象校】」における設問番号に対応
「評〇」…参考資料「選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【評価担当者】」における設問番号に対応
設問の回答率については、小数点以下四捨五入のため合計が100%にならないものもある

② 基本的な観点の構成や内容について

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、「基本的な観点の構成や内容は適切であった」（機関⑥、評⑤）か質問したところ、対象校では、評価事項Aについて、肯定的な回答が91%（「強くそう思う」58%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が8%、評価事項Bについては、肯定的な回答が92%（「強くそう思う」67%、「そう思う」25%）、「どちらとも言えない」が8%であった。一方、評価担当者では、評価事項Aについて、肯定的な回答が86%（「強くそう思う」7%、「そう思う」79%）、「どちらとも言えない」が14%、評価事項Bについて、肯定的な回答が86%（「強くそう思う」7%、「そう思う」79%）、「どちらとも言えない」が14%であった。

③ 評価と課題

選択的評価事項に係る評価については対象校及び評価担当者からおおむね肯定的に評価されており、認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であると考えられる。また、設定された選択的評価事項のテーマ（A・B）や対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという評価方法については適切なものと考えられる。

基本的な観点の構成や内容についても、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、適切であると考えられる。

(3) 自己評価書について

評価の実施に当たり対象校が作成した自己評価書が理解しやすかったか、また、添付資料が適切であったかなどについて検証を行った。

① 自己評価書の記述について

評価担当者に対するアンケート調査において、「対象校の自己評価書は理解しやすかった」（評⑥）か質問したところ、肯定的な回答が 57%（「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が 43%であった。

② 自己評価書の添付資料について

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った」（機関⑦）か質問したところ、「迷った」が 17%、「迷っていない」が 83%であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた」（評⑦）かについては、評価事項Aでは、肯定的な回答が 78%（「強くそう思う」7%、「そう思う」71%）、「どちらとも言えない」が 21%、評価事項Bでは、肯定的な回答が 71%（「そう思う」71%）、「どちらとも言えない」が 29%であった。

③ 評価と課題

自己評価書の理解しやすさについては、評価担当者からおおむね肯定的に評価されており、理解しやすいものであったと考えられる。

また、自己評価書の添付資料については、対象校及び評価担当者からおおむね肯定的に評価されており、適切な根拠資料が添付されていると考えられる。しかし、自由記述では、対象校から、自己評価書の記載事項を十分に説明するための資料の収集、選択、新たな資料の作成にかなりの時間を要したという回答が寄せられており、機構としても、「高等専門学校評価基準及び選択的評価事項の分析に当たっての留意点等について」の中で資料・データ等の例を示しており、これまでも研修会において説明しているが、今後も引き続き、説明会等で添付資料についての対象校の理解を深める必要がある。

(4) 書面調査・訪問調査について

対象校から提出された自己評価書等に基づき、評価部会において評価担当者が対象校の状況を分析する書面調査について、分析の方法、事実誤認の有無を確認するために通知する「書面調査による分析状況」の内容が適切であったかについて検証した。また、書面調査の後、対象校を訪問して書面調査では確認できない事項等を中心に調査する訪問調査について、あらかじめ通知する「訪問調査時の確認事項」の内容が適切であったかなどについて検証を行った。

① 書面調査による分析について

対象校に対するアンケート調査において、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった」（機関⑧）か質問したところ、評価事項Aでは、肯定的な回答が91%（「強くそう思う」33%、「そう思う」58%）、「どちらとも言えない」が8%、評価事項Bでは、肯定的な回答が91%（「強くそう思う」33%、「そう思う」58%）、「どちらとも言えない」が8%であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、書面調査の分析内容を記入するために「機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった」（評⑧）かについては、評価事項Aでは、肯定的な回答が78%（「強くそう思う」14%、「そう思う」64%）、「どちらとも言えない」が21%、評価事項Bでは、肯定的な回答が78%（「強くそう思う」7%、「そう思う」71%）、「どちらとも言えない」が21%であった。

また、「書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった」（評⑨）か質問したところ、評価事項Aでは、肯定的な回答が21%（「強くそう思う」7%、「そう思う」14%）、「どちらとも言えない」が57%、否定的な回答が21%（「そう思わない」21%）、評価事項Bでは、肯定的な回答が7%（「そう思う」7%）、「どちらとも言えない」が64%、否定的な回答が29%（「そう思わない」29%）であった。

② 訪問調査時の確認事項について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった」（機関⑨）か質問したところ、評価事項Aでは、肯定的な回答が91%（「強くそう思う」33%、「そう思う」58%）、「どちらとも言えない」が8%、評価事項Bでは、肯定的な回答が91%（「強くそう思う」33%、「そう思う」58%）、「どちらとも言えない」が8%であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった」（評⑩）か質問したところ、肯定的な回答が93%（「強くそう思う」7%、「そう思う」86%）、「どちらとも言えない」が7%であった。

③ 評価と課題

書面調査による分析については、対象校及び評価担当者からおおむね肯定的に評価されており、「書面調査による分析状況」の内容や、機構が示した書面調査票等の様式は適切であると考えられる。また、書面調査を行うために対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかったとの回答は少ないが、今後要望を把握していくことが求められる。

訪問調査時の確認事項については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、訪問調査の前に提示した「訪問調査時の確認事項」の内容及びそれに対する対象校からの回答内容は適切であると考えられる。

(5) 評価結果（評価報告書）について

機構の作成した評価報告書の内容が適切なものであったかについて検証した。また、書面調査、訪問調査の内容が評価結果に十分反映されたかなどについて検証を行った。

① 評価報告書の内容について

対象校に対するアンケート調査において、「総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった」（機関⑩）か質問したところ、肯定的な回答が91%（「強くそう思う」58%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が8%であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された」（評⑪）か質問したところ、肯定的な回答が93%（「強くそう思う」29%、「そう思う」64%）、否定的な回答が7%（「そう思わない」7%）であった。

② 評価報告書等の公表について

対象校に対するアンケート調査において、「今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイト等で公表している」（機関⑪）か質問したところ、「公表している」が58%、「公表していない」が42%であった。

また、「評価報告書をウェブサイト等で公表している」（機関⑫）かとの質問については、「公表している」が67%、「公表していない」が33%であった。

③ 評価と課題

評価報告書の内容については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、評価担当者の書面調査、訪問調査の内容が評価結果に適切に反映され、総じて、評価報告書の内容や構成は適切であると考えられる。

評価報告書等の公表については、アンケート実施時点で、一部の対象校が今回の評価のために作成した自己評価書及び評価報告書をウェブサイト等で公表していなかった。

(6) 評価についての全般的な意見・感想について

(1)～(5)に挙げたもののほか、評価全般について、評価担当者から、主に次のような意見・感想があった。

・評価担当者からの意見・感想について

「研究活動の状況」「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項としていることを疑問視する意見が寄せられている。

3. 総括

本報告書では、アンケート調査した項目のうち、主要な6つの事項、「(1) 選択的評価事項に係る評価を受けた理由について」「(2) 選択的評価事項及び観点について」「(3) 自己評価書について」「(4) 書面調査・訪問調査について」「(5) 評価結果(評価報告書)について」「(6) 評価についての全般的な意見・感想について」を整理・分類し、分析・評価した結果をまとめている。以下にその概要を述べ総括する。

(1) 選択的評価事項に係る評価を受けた理由について

選択的評価事項に係る評価を受けた理由として、現状の把握や特色のアピールのためという回答が寄せられているほか、「教育とともに研究・社会貢献を責務とする高等専門学校において、選択的評価を受けることは必須であると考えため」のように、選択的評価事項の内容を受けた理由として挙げる高等専門学校も見られた。

(2) 選択的評価事項及び観点について

認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことはおおむね適切であると考えられる。また、設定された選択的評価事項のテーマ(A・B)、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法はそれぞれおおむね適切なものと考えられる。また、基本的な観点の構成や内容についても、適切であると考えられる。

(3) 自己評価書について

自己評価書の理解しやすさについては、おおむね肯定的に評価されており、理解しやすいものであったと考えられる。

また、自己評価書の添付資料については、対象校及び評価担当者からおおむね肯定的に評価されており、適切な根拠資料が添付されていると考えられる。

(4) 書面調査・訪問調査について

書面調査による分析については、「書面調査による分析状況」の内容や書面調査票等の様式はおおむね適切であると考えられる。また、客観的データ等の参考となる情報が必要との回答は少ないが、今後も要望を把握していくことが求められる。

また、「訪問調査時の確認事項」の内容及びそれに対する回答内容は適切であると考えられる。

(5) 評価結果(評価報告書)について

評価報告書の内容については、評価担当者の意見が適切に反映され、その内容や構成についても適切であると考えられる。

また、評価結果の公表については、アンケート実施時点では一部の対象校が自己評価書及び評価報告書をウェブサイト等で公表していなかった。

(6) 評価についての全般的な意見・感想について

評価についての全般的な意見・感想については、評価担当者から、「研究活動の状況」「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項としていることを疑問視する意見が寄せられた。

今回の検証によって、対象校、評価担当者双方から機構の行う現行の選択的評価事項に係る評価に対する意見・要望も見られたことから、更なる改善の必要性も示唆された。

選択的評価事項に係る評価の改善については、対象校が評価の経験を重ねることにより、自己評価書作成等の効率化が図られることが期待されるが、機構においても、寄せられた意見等を踏まえて、選択的評価事項に係る評価の趣旨の更なる周知や実施方法等に関する合理化、効率化の取組等について検討していくことが必要であると考えられる。

参 考 资 料

参考資料 目次

- 1 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】
- 2 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】
- 3 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】
- 4 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
- 5 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【対象校】（高等専門学校用）
- 6 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】（高等専門学校用）

※ なお、アンケートの自由記述については、原則、原文をそのまま掲載した。（ただし、具体の高等専門学校や個人等が特定されるものについては、特定できないような表現に改めた上で掲載した。）

平成24年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式)【対象校】
【高等専門学校】

① 今回受けた選択的評価事項	A	12								
	B	12								
			【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】							
③ 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった			5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			9	2	1	0	0	12	4.67	0
				75%	17%	8%	0%	0%	100%	
④ 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	A	8	3	1	0	0	12	4.58	0	
			67%	25%	8%	0%	0%	100%		
	B	8	3	1	0	0	12	4.58	0	
			67%	25%	8%	0%	0%	100%		
⑤ 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	A	5	6	1	0	0	12	4.33	0	
			42%	50%	8%	0%	0%	100%		
	B	6	5	1	0	0	12	4.42	0	
			50%	42%	8%	0%	0%	100%		
⑥ 基本的な観点の構成や内容は適切であった	A	7	4	1	0	0	12	4.50	0	
			58%	33%	8%	0%	0%	100%		
	B	8	3	1	0	0	12	4.58	0	
			67%	25%	8%	0%	0%	100%		
			【2: 迷った 1: 迷っていない】							
⑦ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った			2	1	計	平均	未回答			
			2	10	12	1.17	0			
				17%	83%	100%				
			【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】							
⑧ 「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	A	4	7	1	0	0	12	4.25	0	
			33%	58%	8%	0%	0%	100%		
	B	4	7	1	0	0	12	4.25	0	
			33%	58%	8%	0%	0%	100%		
⑨ 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	A	4	7	1	0	0	12	4.25	0	
			33%	58%	8%	0%	0%	100%		
	B	4	7	1	0	0	12	4.25	0	
			33%	58%	8%	0%	0%	100%		
⑩ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった			7	4	1	0	0	12	4.50	0
			58%	33%	8%	0%	0%	100%		
			【2: している 1: していない】							
⑪ 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している			7	5	計	平均	未回答			
			58%	42%	100%		0			
⑫ 評価報告書をウェブサイトなどで公表している			8	4	計	平均	未回答			
			67%	33%	100%		0			

平成24年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式)【評価担当者】

【高等専門学校】

① 今回、評価を担当された選択的評価事項について	A	14
	B	14

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
② 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった		5	5	4	0	0	14	4.07	0
		36%	36%	29%	0%	0%	100%		
③ 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	A	5	5	4	0	0	14	4.07	0
		36%	36%	29%	0%	0%	100%		
	B	5	4	5	0	0	14	4	0
		36%	29%	36%	0%	0%	100%		
④ 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	A	1	8	5	0	0	14	3.71	0
		7%	57%	36%	0%	0%	100%		
	B	1	8	5	0	0	14	3.71	0
		7%	57%	36%	0%	0%	100%		
⑤ 基本的な観点の構成や内容は適切であった	A	1	11	2	0	0	14	3.93	0
		7%	79%	14%	0%	0%	100%		
	B	1	11	2	0	0	14	3.93	0
		7%	79%	14%	0%	0%	100%		
⑥ 対象校の自己評価書は理解しやすかった		0	8	6	0	0	14	3.57	0
		0%	57%	43%	0%	0%	100%		
⑦ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	A	1	10	3	0	0	14	3.86	0
		7%	71%	21%	0%	0%	100%		
	B	0	10	4	0	0	14	3.71	0
		0%	71%	29%	0%	0%	100%		
⑧ 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	A	2	9	3	0	0	14	3.93	0
		14%	64%	21%	0%	0%	100%		
	B	1	10	3	0	0	14	3.86	0
		7%	71%	21%	0%	0%	100%		
⑨ 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	A	1	2	8	3	0	14	3.07	0
		7%	14%	57%	21%	0%	100%		
	B	0	1	9	4	0	14	2.79	0
		0%	7%	64%	29%	0%	100%		
⑩ 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった		1	12	1	0	0	14	4	0
		7%	86%	7%	0%	0%	100%		
⑪ 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された		4	9	0	1	0	14	4.14	0
		29%	64%	0%	7%	0%	100%		

選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果(自由記述)【対象校】 (高等専門学校)

②選択的評価事項に係る評価を受けた理由について

- ・ A、Bともに本校の教育研究活動の一環として重要な活動であり、評価を受けることが当然である。
- ・ 高等専門学校の重要な事項であり、各校の特色がもっともあらわれるから。
- ・ この評価事項を学校運営に活かすため。
- ・ 高等教育機関として社会に果たす責務には、教育のほかに研究と地域貢献がある。研究と地域貢献活動を今後も継続して、そしてさらに発展させ、客観的な評価を受けることは必要であると考えているからである。また、それらの活動を通して得た成果を学生教育に還元することが重要であると考えている。
- ・ 近年、本校は研究活動や地域との連携に積極的に取り組んでおり、選択的評価事項について評価を受けることにより、本校の研究活動の促進、さらには、地域と連携した教育活動の推進に継続すると考えたため。
- ・ 本校の目的を達成するために策定した中期目標・中期計画に研究目的及び教育サービスに関する目的を掲げ、研究活動及び教育サービス活動を推進している。
- ・ 本校の教育研究活動の現状を把握するには、選択的評価事項も重要な項目であると認識しているから。
- ・ 高等専門学校においては、教育研究活動や社会貢献は非常に大切であり、本校の現状を把握することは必要であると考えたから。
- ・ 本校の魅力ある特色ある研究・教育の評価を行って欲しいと考えたから。
- ・ 本校の強みをアピールできると考えたから。
- ・ 高等専門学校は、選択的評価事項を受審することが義務づけられていた。
- ・ 教育とともに研究・社会貢献を責務とする高等専門学校において、選択的評価を受けることは必須と考えるため。

⑦自己評価書に添付する資料で迷った点について

- ・ 多角的な活動をどうまとめるかという点。
- ・ 自己評価書の記載事項を十分に説明するための資料の収集、選択、新たな資料の作成にかなりの時間を要した。

○選択的評価事項に係る評価についてのご意見、ご感想があればご記入ください。(選択的評価事項に係る評価を受けて何らかの変更・改善を予定しているもの(または実施済みのもの)があれば、それらもご記入ください。)

- ・ ⑪、⑫(自己評価書及び評価報告書の公表)については、4月3日時点であり、今後本校ウェブ

サイトに公開し、報道機関への学校発表を行う予定である。

- ・ 自己評価書の公表に関しては、今後、学内で議論して決定する。
- ・ 選択的評価事項Bは高い評価を受けたので、今後とも学校として地域への教育サービスを積極的に取り組んでいきたい。

選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）

【評価担当者】（高等専門学校）

⑨書面調査を行うために必要であったと思われる参考となる情報（客観的データ等）について

- ・ 研究活動を評価するのであれば、各教員の研究業績一覧があれば評価しやすいのではないかとと思う。
- ・ 外部発表論文リスト、取得特許リストなど、カテゴリー分類されたデータについて、質と量の経年変化が明確になるような資料。
- ・ 優れた点を洗い出すのに、先進的な高等専門学校の事例や自己評価書例があれば、判断しやすかった。

○選択的評価事項に係る評価についての意見、感想など

- ・ 経験の浅さに由来するところが原因で、いくつかの項目で回答が悪くなっている。本質的なところの解答になっていないかもしれないのでご容赦いただきたい。
- ・ 「研究活動の状況」「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項とし、対象校に「できるだけ選択することを推奨している」現状は、対象校には「なぜ」と疑問に感じる教職員も多いと感じる。

平成24年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート

選択的評価事項に係る評価を受けた対象校のみお答えください。

- ① 今回、受けた選択的評価事項について、該当するものに○をお付けください

・選択的評価事項A「研究活動の状況」	
・選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」	

- ② 選択的評価事項に係る評価を受けた理由をご記入ください

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ③ 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ④ 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」
 を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ⑤ 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示す
 という方法は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ⑥ 基本的な観点の構成や内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

迷った	迷っていない	
2	1	

⑦ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った

→※⑦について、2とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

⑧ 「書面調査による分析状況」の内容は適切であった -----

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

⑨ 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった -----

→※⑨について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑩ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった -----

⑪ 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している -----

⑫ 評価報告書をウェブサイトなどで公表している -----

している	していない	
2	1	
2	1	

・選択的評価事項に係る評価についてのご意見、ご感想があればご記入ください。（選択的評価事項に係る評価を受けて何らかの変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）があれば、それをご記入ください。）

ご協力ありがとうございました。

平成24年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート

選択的評価事項に係る評価を担当された方のみお答えください。

- ① 今回、評価を担当された選択的評価事項について、該当するものに○をお付けください

・選択的評価事項A「研究活動の状況」	
・選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」	

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ② 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ③ 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」
 を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ④ 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示す
 という方法は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ⑤ 基本的な観点の構成や内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

- ⑥ 対象校の自己評価書は理解しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

⑦ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑦について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

--

⑧ 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

--

⑨ 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑨について、5又は4とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）があればよかったかをご記入ください。

--

⑩ 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑪ 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された --

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ・ 選択的評価事項に係る評価についてご意見、ご感想などをご記入ください。

ご協力ありがとうございました。